

## 【どのような性格の建物なのか】

「守（かみ）」と読める墨書きのある土器が出土していることや、「玉造」「伴」や「建部」など氏名を持つ人物名の書かれた木簡が出土していることなどから、この遺跡の役割を中央政権の出先機関の一つではないかという説と、建物の扉板に経典を読んだとされる墨書きがあることなどから寺院と考える説もあります。



たまつくり たてるべ  
「玉作」「建部」などの  
人名と米の量が書かれています。

胡桃館遺跡収蔵庫は常時一般公開しておりませんが、定期的な公開を予定しています。公開の際は、市広報・ホームページなどを通して事前にお知らせします。



### 交通のご案内

JR奥羽本線鷹ノ巣駅より徒歩15分  
北秋田市立鷹巣中学校そば

北秋田市指定 史跡  
国指定重要文化財 (考古資料)

# 胡桃館遺跡



B2 建物

お問い合わせ  
北秋田市教育委員会 生涯学習課

〒018-3312 秋田県北秋田市花園町 15-1  
TEL (0186)62-6618 FAX (0186)62-1669

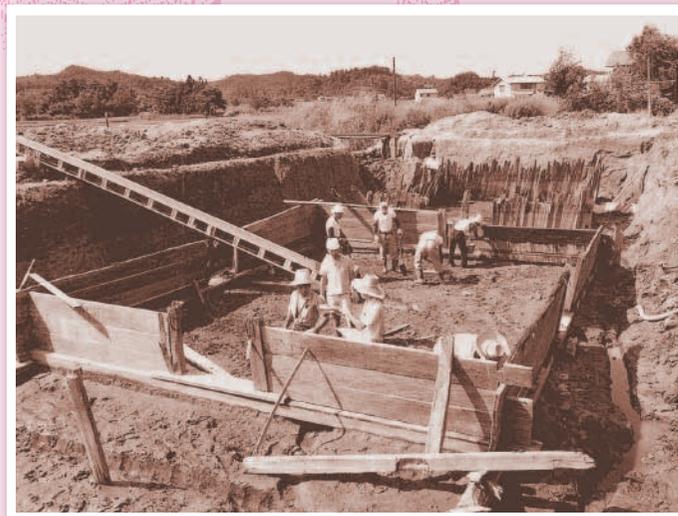
北秋田市教育委員会 生涯学習課

# 北秋田市指定 史跡 胡桃館遺跡

所在地 北秋田市綴子字胡桃館1  
指定年月日 昭和53年2月1日

## 【胡桃館遺跡とは】

胡桃館遺跡は、JR鷹ノ巣駅北西に約1km、標高約30mの沖積地に位置する平安時代の集落跡です。昭和42～44年に発掘調査され、シラスと呼ばれる火山層の中から四棟の建物と柵列等が検出されました。上半部は失われているものの、古代建築が建ったままの状態出土した例はほとんどありません。建築遺材そのものの状態も良好で、表面の加工痕跡を明瞭に観察することができます。

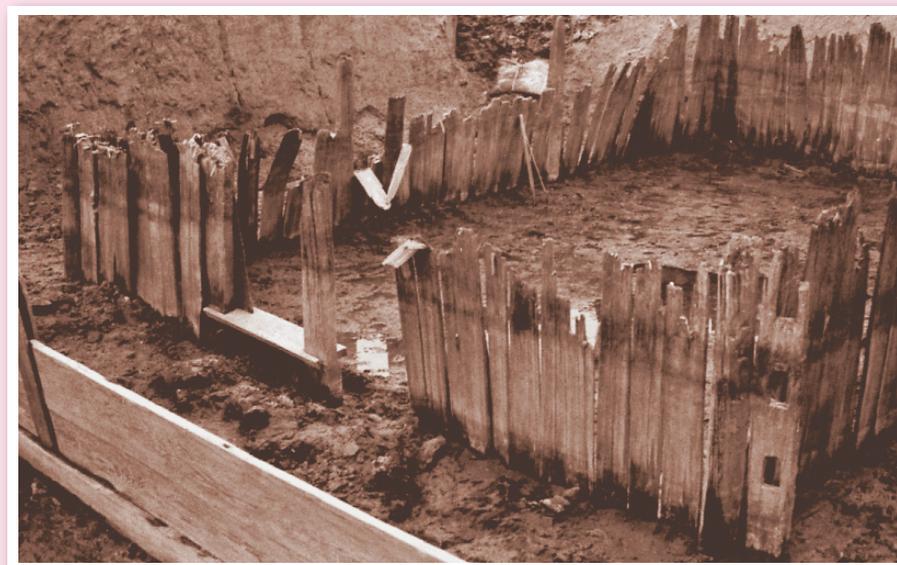


構築された状態のまま出土した建築部材として比類なき価値を備えており、考古学・古代史学・建築史学などにおける学術的価値がきわめて高い遺跡です。

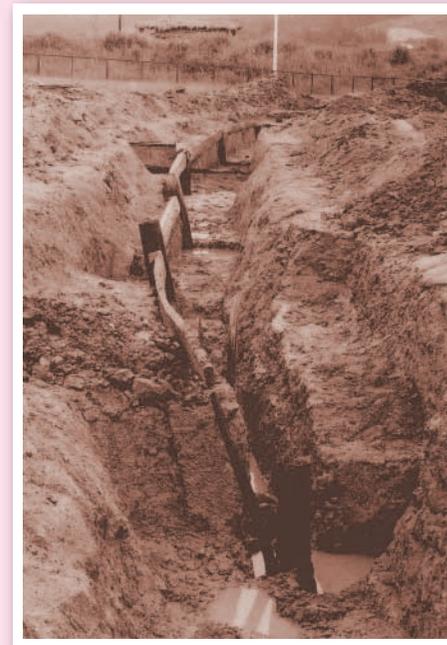
## 【日本のポンペイ】

普通、建物の柱や板などの木材は地中に埋まっていると腐ってしまいます。しかし、胡桃館遺跡の木材が何故当時のまま残っているのか、その理由は十和田火山の噴火にあります。現在の十和田湖は約千年前（一説によると西暦915年）に噴火しました。この地域には火山灰はあまり降らなかったようですが、米代川を大量の火山灰泥流（シラス洪水）が流れ、流域の村々を飲み込んでしまいました。

鷹巣盆地内には2～3mもの火山灰泥流が堆積し、この層に埋没することで建築当時の姿のまま残されることになりました。我々の生活をしている地下深くに千年前の村がそのまま眠っているのです。



B1 建物



建物跡を囲っている柵列

## 【柵に囲まれた建物群】

建物は4棟確認されました。B2、C建物は井桁に組んだ土居を基礎として、横板を交互に組む板校倉様式の建物です。B3は高床の倉庫で、梯子などもそのまま見つかっています。

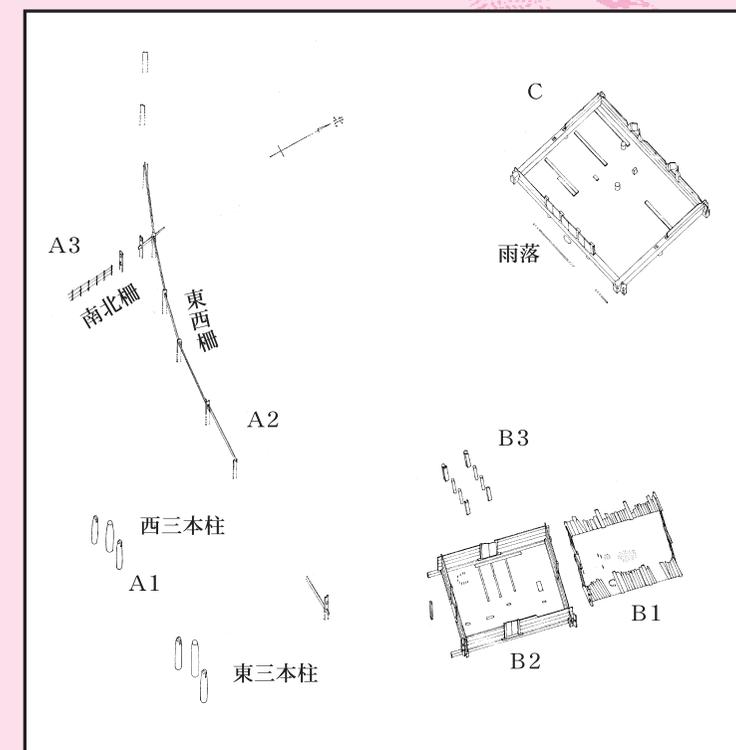
建物の周りには、集落を囲っていると思われる柵の列が発見されています。A2は東西に弧をえがいて連続する柵列で、総延長は80m以上であることを確認しました。A3は、A2柵列に直交して南方に延びる柵列です。延長約30mを確認し、さらに南方に広がるようです。

この他、3本一組の柱も確認されていて、村の入口に立っていた柱と考えられます。

遺跡は、北側に広がっている可能性が地中レーダー探査などの最新の研究で明らかになっています。



胡桃館遺跡から出土した遺物のうち441点は『胡桃館遺跡建築遺材及び出土遺物』として、平成21年7月10日国の重要文化財(考古資料)に指定されました。



永井規男「秋田の埋没家屋」より転載